

フォーカルプレーンシャッター



スピグラのフォーカルプレーンシャッターの暦は古く 1900 年代初めに基本的なメカニズムは完成している。1 幕式で、巨大なシャッター幕には 3 種類のスリット、1/1000 秒、1/250 秒と 1/60 秒用と 0 (T、タイム) 用のスリットが間隔をおいて開けられている。(左の写真は 1/500 秒用スリット)。シャッターを巻いていくと速度表示窓に順に 0、T、1/60 (1/30)、1/250 (1/125)、1/1000(1/500)が表示される。1 幕式なので必要なスリット(スピード)まで巻き上げて使う単純な構造のシャッターである。カッコ内はスローガバナーが働いたときのスピードで、下部のレバースイッチでこの切換ができる。T はタイムで、シャッターボタンを押すとシャッターが開放

になり速度表示窓は 0 に表示が変わる。もう一度シャッターボタンを押すと幕が下りてシャッターが閉じ表示窓には何も表示されなくなる。シャッターを巻いていくと(コッキング) 順にスリットが現れるのでフィルム面にも光が当たってしまう。すなわちコッキングの際遮光はされないのである。シャッターを巻く(コッキングする)ときは必ずフィルムホルダーの引蓋を戻しておかなければならない。また、大判カメラのレンズシャッターにはプレスボタンがあるので、これを誤って操作するとフィルムが無駄になるから要注意だ。レンズシャッターでも引蓋を引くときは必ずシャッターが閉じていることを確認しなければならない。プレスボタンはピントを見るために強制的にシャッターを開く機能のことである。

ボディ右下の切換レバーをスローにするとガバナー連結され、表示窓もスロースピード(1/500 秒、1/125 秒と 1/30 秒)に切り換わる。

シャッ



ター幕には各スリットごとに金属接点が貼り付けられていて、グラフィックス独自の 2 本のつの型のターミナルに接点信号が配線されている。フラッシュバルブ(球)は発光時間が長いので、フォーカルプレーンのようにシャッターが全開アパーチャーでなくても使えるのである。当然、高速になるほど露出量は少なくなる。

シャッター速度 0 の位置から 1/1000 秒にするには、5 回つまみを巻かなければならない。バネがだんだん強くなっていくので 1/1000 秒近くではかなり力がある。スピグラのフォーカルプレーンは 1 枚の長い幕を必要なスリット(スピード)まで巻き上げて使うので、例えば 1/250 秒を使った後は、次の 1/60 秒がレディ状態になっているのである。1/1000 秒にセットしたあと、気が変わって速度を下げるときはシャッ

ターボタンを押して速度を下げてやる必要がある。速度を上げるときは更に必要とするスピードまで巻いてやる要がある。